

平成28年度特別事業 親子ふれあい事業

のこのしまアイランドパーク

今回の『平成28年度 福岡市PTA協議会 親子ふれあい事業 のこしまアイランドパーク親子ペア招待券』には、14,000組の応募の中から役員の厳正な抽選を行い2,000組の親子(2名)をご招待させて頂きました。

博多湾に浮かぶ能古島のアイランドパークは、コスモスなどの四季の花々が咲き、動物園、アスレチック、のこのこボール、芝生広場などで思いっきり遊び、親子で有意義な1日を過ごすことができました。



★ロープスキー★

15分／200円※子どものみ

「キャー!!
速くて
たのしい～♪」
(小3・女子)

★やぎの家★

なかなかやぎさんが食べて
くれずに困っています。
「やぎさんはやく～ん！」

発行所
福岡市中央区天神1丁目10-1
市庁舎北別館
福岡市PTA協議会

発行人
会長 西方俊司
広報委員会



福岡市PTA協議会
ホームページ

<http://www.fukuokacitypta.jp>

福岡市PTA 検索

印刷(株)ミックスコーポレーション

のこしま アイランドパーク園内マップ



★のこのこボール★

9ホール／500円 18ホール／800円

親子で一緒に
楽しめます

★アスレチック★



海をバックに
ターザンロープで
気分爽快!!



のこしま アイランドパーク園内マップ

福岡市PTA協議会

ホームページ

<http://www.fukuokacitypta.jp>

福岡市PTA 検索

印刷(株)ミックスコーポレーション



能古島全景



【早寝・早起き・朝ごはん】啓発講演会

主催：福岡市教育委員会・福岡市PTA協議会
平成28年7月8日 福岡市立東市民センター



「電子メディアの子どもへの影響、親子でどう関わるか」～早寝・早起き・朝ごはん、そしてスマートホン～をテーマに国立病院機構九州医療センター小児科医長佐藤和夫氏にご講演いただきました。

●小児科医会の提言



最も脳が発達する乳幼児期に長時間メディアと関わりが遅れる、「コミュニケーション能力が身につかないなどの障害を引き起す原因となるため、授乳中や食事中はもちろん、2歳までのテレビの視聴は控えましょう。」

メディアと関わりを持つことで、発語

が遅れる、「コミュニケーション能力が身につかないなどの障害を引き起す原因となるため、授乳中や食事中はもちろん、2歳までのテレビの視聴は控えましょう。」

●メティアリテラシー！スマホリテラシー！



「リテラシー」とは読み解く力のこと。何も考えずに受け入れてしまふのではなく、本当にどうかと考えたり批判的に見たり、必要でないものは見ないようにすること。見たい番組だけを選択し、終わつたテレビを消し、離れる。「消す力」が大切です。子どもだけではなく私たち大人もメディアに頼りない使い方を見直し、食事中だけでも、週に一度、月に一度などのノーメディアティーを設定して実行してみませんか？

以下、江南中学校の生徒が自分達で作ったスマホリテラシーです。是非参考にして皆さんのお家庭や学校でも役立ててみて下さい。

●親友行動は子どもからSOS

北九州少年サポートセンター係長 安永智美（やすながさとみ）氏

●親友行動は子どもからSOS

・思春期は苦しくてもも言葉で言えない時期だから問題行動で親や先生にSOSを送る。

・思春期は苦しくてもも言葉で言えない時期だから問題行動で親や先生にSOSを送る。

●親友行動は子どもからSOS

・思春期は苦しくてもも

平成29年度 教育予算要望

教育環境の改善とPTA活動のさらなる充実を図るため、市内小中・特別支援学校より頂いた意見をもとに教育問題委員会にて討議し、理事会の承認を経て、平成29年度教育予算要望を作成いたしました。

福岡市PTA協議会西方俊司会長より福岡市教育委員会星子明夫教育長に要望いたしました内容を一部紹介いたします。

① 単位PTAがより一層の充実した活動を展開していくための支援施策を図られたい。

② 学校教育内容のより一層の充実を図られたい。

- 児童生徒へのよりきめ細やかな指導を実現するために、国や県に対し、教職員の定数の増員における働きかけの強化をお願いしたい。
- 学校教育の諸問題解決のための措置を図られたい。
- さらなる学力向上のため、チームティーチングや個別指導の一層の推進をお願いしたい。

・そのために、福岡市独自で可能な教職員の増員を取り組んでいただきたい。とりわけ、学校支援、指導方法工夫改善、専科教員の増員を早急にお願いしたい。

○読書教育の推進充実を図られたい。

- ・全学校に学校司書を1名早急に配置していただきたい。
- 食育推進を更に進めていただきたい。

○全学校に栄養教諭または学校栄養職員の配置をお願いしたい。

○安全かつ快適な学校作りを推進するために、老朽化や破損など、各学校施設が抱える課題に引き続き対応していただきたい。

○普通教室以外の特別教室等にも、必要に応じて冷暖房等の空調設備の設置を引き続きしていただきたい。

○安全かつ快適な学校作りを推進するために、老朽化や破損など、各学校施設が抱える課題に引き続き対応していただきたい。

○普通教室以外の特別教室等にも、必要に応じて冷暖房等の空調設備の設置を引き続きしていただきたい。

③ 学校教育環境整備充実を図られたい。

・特別支援学級に在籍する生徒の高等学校進学に対する積極的な支援をお願いしたい。

・保護者や校区内居住者に対し、障がいのある人への理解と啓発を深める教育及び交流を積極的に推進されたい。

・スクールカウンセラーの小・中学校全校配置と、対象児童・生徒ならばに保護者の「一々」に応じたカウンセリングが即時対応できる体制の実現を早急にお願いしたい。

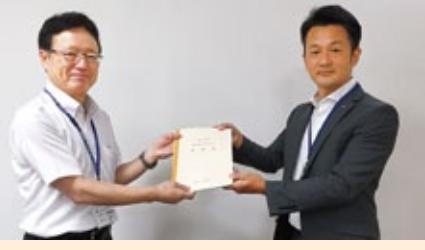
・不審者の侵入などの緊急時に早急に職員室などにお知らせすることのできるインターの設置を中学校にも設置をお願いしたい。

・防犯カメラ・レコーダーの不具合が見受けられるため、早急に更新をお願いしたい。

・平成28年度福岡市の一般会計における教育費の割合(6.8%)が政令指定都市全体の平均(7.3%)を大きく下回っており(全20都巿中14位)、異なる教育予算増額の市への働きかけをお願いしたい。

⑦ その他

○平成28年度福岡市の一般会計における教育費の割合(6.8%)が政令指定都市全体の平均(7.3%)を大きく下回っており(全20都巿中14位)、異なる教育予算増額の市への働きかけをお願いしたい。



小学校・中学校・特別支援学校PTA 担当副会長研修会

平成28年10月21日 中央市民センター

「子どもたちからのSOS!」～より良い親子関係を築くために～

本年度の担当副会長研修会は、C&S音楽学院学院長の毛利直之氏をお迎えしての講演、同学院卒業生・在校生親子2組の体験トークとミニライブという盛りだくさんの内容でした。

開校前はプロを目指すミュージシャンの卵が集まり、互いを磨き合う学校をイメージしていた毛利さん。専門学校より早く音楽に集中できる環境をと高校卒業資格が取得できる音楽学校にしたことで、小・中学校で不登校などの課題を抱えた子どもたちも多く入学してきました。



*子どもたちからのSOS

不登校などの課題を抱えた子どもたちの問題・課題は彼らの中にあるのではなく、周りの環境や社会が抱える問題・課題そのもの。そのダメージを強く受けた子どもたちの心からのSOSなのです。

*夢や希望を描けるような社会に

子どもたちをインターネット時代の危険から守るために、自らの意志でケータイを置いてパソコンの前から立ち上がる積極的動機=「夢」が必要。自分がことが好きになれず自信がないという子が増えています。これは大人の責任だと思います。



★参加者へのおみやげ★
今回は中央区の就労支援事業所「カフェさくら」の手作りお菓子です。かわいい紙バッグも手作り。

不登校を乗り越えた親子のリレートーク

◎小田夢乃さん親子の場合

中学2年の時、大分から福岡へ転校。制服を自分なりに着こなしたい夢乃さんは先生とぶつかり、学校を飛び出し、家出を繰り返すようになりました。

とにかく会話をしていたと話すお母さんは、夢乃さんの「普通」に縛られたくない、自分で考えて行動したいという一貫した主張に気付きました。そうして夢乃さん自身がやりたいことで力を発揮でき、周囲も応援できることで頑張ってほしいと願い、C&S音楽学院に出会います。

●転機●C&S音楽学院2年の終わり、音楽祭に向けて頑張っている1年の姿をみて、内面から出るかっこよさに気づき、自分も頑張り始めた。

一步を踏み出せば、見えなかつものが見え、聞こえなかつものが聞こえるようになり、景色が変わった。プロセスに大きな意味があることを見出したのです。

引きこもりや不登校の子は、このプロセスを嫌がりながらも完璧さを求めるあまり、できない自分が許せないからやらないということが多いです。

現在、夢乃さんは全国的な音楽コンテストなどで



優秀な成績を収め、東京を中心に活躍しています。

◎篠原凜太郎さん親子の場合

中学2年の修学旅行初日に友達から仲間はすでにされ、中学3年から高校1年まで自宅に引きこもっていました。

何かに怯えるようになった凜太郎さんは、自分の気持ちを家族に伝えられず、家庭内暴力にまでエスカレートしました。彼の苦しみが伝わってくるものの、どう接していいか悩んだというお母さん。さながら出口の見えないトンネルの中を走っているようでした。

最初は登校を促していたお母さんですが、「〇〇せねばならない」に押しつぶされていることに気づき、自分がしっかりして凜太郎さんの気持ちを全部受け止めようと決心をしました。光が差した瞬間です。

●転機●自分でキツかった時代にその思いを歌詞にしてメモしていた。それに曲をつけて人前で歌った時、自分の気持ちを客観的に見て整理することができた。

ありのままを認めてもらえることに気付いた凜太郎さんは、笑顔と明るさを取り戻しました。

*親としてサポートできることは…

- ・好きなものを何かひとつ見つけ精進させる
- ・子どもを信じて見守る
- ・家庭が拠り所となるようにする

C&S音楽学院学院長 毛利直之氏◆プロフィール

ミュージシャンとして活動後、2001年に高校卒業資格が取得できる音楽学校「C&S音楽学院」を早良区荒江に開設、学院長に就任。早良区有田小学校・次郎丸中学校のPTA会長を9年間歴任。

次世代を担う子どもたちが、どんな宇宙開発の技術を考え出すか、そして、それが、どんな形で私たちの生活を豊かに、そして便利にしていくのか

そこで、改めて、この宇宙開発が私たちの生活を、どのように豊かに、そして便利にしていくか調べてみました。すると、テレビ、エアコン、扇風機、部屋の照明スイッチなどのリモコンは、宇宙でスペースシャトルに乗っている人同士が話をするために開発された技術の応用でした。他にもまだたくさんありました。

私が勤務する脇山小学校は、背振山のすそ野にあります。山のすそ野では、自然豊かな学校です。夜になると、星がとてもきれいに見えるため、宇宙や星への関心が高い子どもたちもいます。今年9月、NASAは、宇宙望遠鏡「ハッブル」を使った観測によって、木星の衛星「エウロパ」から水蒸気と思われる物質が噴出している様子を捉えたと発表しました。また、日本では、鳥取砂丘で月の表面を探査する探査車開発のための実験が行われるという報道がありました。このように宇宙開発のための技術の進歩には、めざましいものがあります。

Column 生活を豊かに便利にする

宇宙開発の技術

脇山小学校 校長 岡 英之

